

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 金武あけぼの会		
事業所名	グループホーム ローズガーデン		
所在地	沖縄県沖縄市諸見里3-41-30		
自己評価作成日	平成26年 1月24日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>グループホーム ローズガーデンは、平成24年4月に開所し、約2年経過したまだ新しい施設です。併設施設として特別養護老人ホーム 森城(ムイクス)があり、地域に根差したホームを目指しています。地域ボランティアをはじめ、近隣の保育園児や学生ボランティア等にもお越し頂き利用者様の活性化に努めています。ローズガーデンの食堂には大きな開閉窓があり、人の出入りや、車の往来等日々変化が見られるので利用者様には大変喜ばれています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=4790400065-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=4790400065-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年3月25日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所と同じ建物の2階・3階に介護福祉施設を併設し、事業所の敷地内には同法人関連の通所サービスや有料老人ホームがある。行事等は各施設と合同で実施し、ボランティアや保育園児の訪問等も交互に受け入れ、日常的に利用者は各施設利用者と交流している。また、併設の介護福祉施設の嘱託医や看護師とは当事業所利用者の体調面や投薬等の相談ができる体制となっている。排せつに関して法人全体で自立支援に力を入れており、当事業所もおむつ使用ゼロに向けて取り組んでいる。同じ建物の4階に大人数を受け入れできるホールも設置され、家族会を開催したり、利用者や家族、職員等で親睦会等の催しを行ったりしている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成26年4月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼にて毎日理念の唱和を行い共有を図っている。	現在の理念は法人の理念であるが、管理者と職員は理念を通して、日々の具体的ケアについて意思統一を図っている。開所2年の節目として次年度に向けて、利用者個々のケアを大事にし、地域に根ざした地域との関わりの文言を取り入れた事業所独自の理念作成を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・隣接するサービスとの交流や、自治会での清掃活動へ積極的に参加し、また、子供会エイサーや婦人会の表敬訪問による余興、保育園児らの散歩コースになって交流を持ったりと、地域ぐるみでなじみの関係が出来る。	自治会に加入し、清掃活動等の地域活動には主に職員が参加している。地域の方の訪問活動が活発で、自治会からのボランティア依頼が多く、同じ建物内に併設された施設と交代で受入れをしている。利用者が地域活動等に参加する機会は少ない。	日々の事業所内の活動に加えて、利用者が地域と日常的に交流できる機会が持てる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関する資料やパンフレット等を置いてご家族、来訪者へ提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回会議を開き、サービス状況を報告し、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議は利用者や家族、行政・地域代表が参加して年6回開催されている。委員から防災関連や身体拘束等に活発な意見が出され、情報交換されている。議事録は作成後、委員に次の開催案内文書と共に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・高齢福祉課、地域包括支援センター、生活保護課とは常に協力、報告、アドバイス等を行っている。	市担当者とは、毎月入所者に関する情報交換を行っている。行政側からは、地域住民への車椅子操作法の講師依頼があり、管理者が講師を引き受け実施している。災害時の受け入れの相談があるが、夜間の職員勤務体制の課題があり、受け入れには到っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人の施設目標で身体拘束廃止を掲げているのでその行為はない。また、施設内に掲示している。	玄関は同じ建物内に併設された施設と共有しており、日中の玄関の施錠はしていない。身体拘束廃止に向けて定期的な勉強会は実施していないが、管理者は職員に対して口頭で、身体拘束の具体的な内容を説明し、身体拘束をしないケアについての確認をしている。	

沖縄県（認知症グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者への言葉掛け一つにも職員間で周知しケアの統一を図っている。また、ご家族に対しても認知症への正しい理解を求めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業を活用し利用者の病院受診への同行や外出等の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご本人やご家族に対し契約に関する説明をしっかりと行い、理解、了解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・絶えずご家族とのコミュニケーションを大切にし、遠慮なく意見が言える雰囲気作りを行っている。 ・ご意見箱を設置している。	利用者の意見はおやつタイムに職員が側に座って聴く機会とし介護相談員の受け入れもしている。家族の意見はケアマネを中心に面会時や電話での聞き取りを行っている。家族からリハビリ強化の希望があり、足で漕ぐリハビリ機器を購入し、散歩の回数を増やして実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の全体会議や定例会議では、代表者や管理者等も交えて行っており、日頃から自由に意見交換がなされる雰囲気作りを努めている。またミーティング等でも活発に意見交換が行われ実際の業務に反映されている。	職員の意見は、会議以外でも管理者が日常的に職員へ声かけしながら意見を聞く機会を設けている。職員からの備品購入等の要望にも迅速に対応している。また、法人へ働きかけて早めに外出支援目的の車両購入ができるように交渉を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい環境の整備や条件等を整える為の話し合いを代表者と管理者で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡会主催の研修や、集まりなどへ参加し、他施設職員との情報交換等を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の思いや不安、意向等を確認し、常に傾聴する姿勢を持つことに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が置かれている状況を把握、確認しながら希望や要望などを受け止め、解決案を提示し、安心、納得を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人やご家族にとっての最優先解決課題を見極めながら、他のサービスも視野に入れ提案、対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自己決定が出来るような支援を心掛けると共に、利用者と寄り添う生活環境整備に努めている。また、テレビ鑑賞やコーヒータイムなどでリラックスしながら過ごす時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人、ご家族との絆を断ち切らないように、積極的に面会、外出などの提案を行っている。また、家族間での意見、相談にも取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・隣接するデイサービスとの協力を下に地域住民との交流にも働きかけている。馴染みの場所(教会や美容室)や人との関係が途絶えないようにご家族と共に支援している。	利用者との日常会話の中や家族、以前利用した事業所の職員からも友人関係や職歴等の情報を得ている。月1回の訪問理・美容を利用したり、馴染みの場所への訪問を計画して出かける利用者もいる。家族から、受診後に馴染みの散歩コースと一緒に出かけたとの報告もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の交流の機会も多く、共にレクリエーションや手工芸等での活動の場も設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約前、契約終了後も、本人、ご家族などの状況を確認し、他の社会資源へと繋げている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中での本人の過ごし方や、習慣等を確認し把握している。状況に応じてはご家族への協力も頂きながら進めている。	利用者の思いは日常会話の中で聴いて把握している。把握が困難な場合は簡単な言葉で声かけし、表情等を観察している。静かに落ち着いた生活を望む利用者が多く、職員は無理強いせず、利用者の希望に添ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを本人、ご家族から伺い出来るだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常から利用者の心身の状況、認知度についても把握し、出来ることを見つけて少しでも取り組みに参加して頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に、本人やご家族、医療と介護スタッフと話し合い状況に即した介護計画を作成している。	3ヶ月に1回モニタリングを実施している。個別ケアについては職員ミーティングで話し合い、情報を収集して共有している。計画の見直しは6ヶ月に1回で、計画通りケアサービスが実施されていないケースに、職員や家族から情報を収集して、介護計画を見直した事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の状況を記載し、スタッフ全員が情報を共有、把握できている。また、日々の状態や家族とのやり取りを支援経過に記載している。		

沖縄県（認知症グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族、その時の状況に応じ、共通のサービス以外にも臨機応変に柔軟なサービスの支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・馴染みの方であったり、通いなれた病院、お店等お一人おひとりの地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・法人併設の特別養護老人ホームに嘱託医がおり、状況に応じて状態を報告したり、かかりつけ医の病院や専門科への受診を促したり連携を図っている。	利用者は希望するかかりつけ医を受診し、家族同行が原則である。受診時の情報交換は家族と口頭で行うが、必要に応じて情報提供書を作成し、必ず医師から返書をもっている。また、併設する法人施設の嘱託医や看護師と連携し、利用者の健康管理等の相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ローズガーデンには看護師配置はないが、定期的に法人併設の特別養護老人ホームの看護師が見回りに来てもらっている中、助言等もらいながら適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護支援専門員が入院先の地域連携職員と情報交換を密に行いながら、早期退院、受け入れ時期などの調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に、ご家族へ終末期に対する意向を確認し、事業所内で出来る事を十分説明した承を得ている。また、終末期へ移行の際には併設の特別養護老人ホームへの転床を視野に、ご家族と両施設の関係職員との話し合いを持っている。	重度化や終末期については、契約時に本人や家族に事業所の職員体制等現状では対応できない旨口頭で説明している。現在は、利用者の状態変化に応じてその都度家族や職員と話し合い、支援方法について共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設の特別養護老人ホームの看護師が中心となり、業務終了後に勉強会等を必要時に行っている。また、AEDを施設に一台設置し、取扱い方法について講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・直近では、平成26年1月21日に消防職員立会いの下、隣接施設の有料老人ホーム竹園と合同非難訓練を実施。	消防署立会いの法人全体の訓練と、同一建物内併施設設合同の自主訓練を実施している。訓練はいずれも昼間想定の実施で、近隣住民にも協力を呼びかけているが参加はない。防災設備は完備され、2日分の非常食等の備蓄があり、今回避難経路の表示の改善を行っている。	夜間の職員配置が一人である事をふまえ、避難、救出等迅速に対応するためにも夜間を想定し、併せて地域住民を含めた訓練の実施が望まれる。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉掛けには職員間でも十分注意を払い、アドバイスをしながら対応している。 ・利用者の意思や、思いを損ねないような声掛け対応を心掛けている。	理念の「利用者の意思を尊重」を基に、本人に必ず確認し同意を得ながら支援を行っている。日課等も無理強いすることなく、自室で休みたい等利用者の自主性を尊重している。利用者への対応や言葉遣いが気になる場面があれば職員間でその都度注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に声掛けを行う中で利用者の意向を確認し、自己決定が出来るような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自室で休みたい時やおやつを食べたくない時、外に出掛けたくない時など、利用者の訴えを聴き、その日の状態を考慮しながら、声掛け、見守りを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・月に一度、出張散髪が訪問し、身だしなみの支援を行っている。また、定期的に爪切りや顔ぞり等を行い、おしゃれには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の食事形態を確認し、栄養士による栄養のバランスにも配慮した食事の提供を行っている。 ・配膳や下膳と出来る利用者に協力して行っている。	食事は同じ建物内厨房からの配食である。法人の栄養士が利用者の要望等を聞き、1ヶ月分の献立を作成している。献立によっては各々の嗜好にあわせて食材を変更している。利用者は野菜の下ごしらえやおやつ作り等で調理に参加し、職員も一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を記載し状況把握に努めている。 ・水分摂取1日1200～1500mlを目標に実現出来ている。		

沖縄県（認知症グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや声掛け、介助によりケアが行われている。また、本人、ご家族の意向や義歯の状態により毎週木曜日に訪問歯科医師による往診体制も整っておりその都度、ご家族立会いの下治療が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・法人全体でオムツゼロを目標に掲げて行っており、全利用者が日中、トイレでの排泄を行っている。夜間もオムツ使用者ゼロである。	排せつパターンを把握し、開所時から継続して現在も利用者はオムツを使用せず、夜間もトイレ誘導を行っている。「水分」「排便」「栄養」「運動」を基本に「トイレでの排せつ」の支援を職員間で共有し、徹底している。日中の失敗もほとんどなく、事業所内は排せつ臭がない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量を1日1200～1500mlに設定し様子を見たり、食物繊維補助食品などを活用して食事に混ぜてあげたり、日中の活動量を増やしたり、日々、取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・ある程度の設定はあるが、必ず本人の意向を確認し入浴を行っている。	週3回の入浴を基本としているが、入浴時間も含め希望に応じて何時でも入浴が可能である。同性介助ができない際は、本人の了承を得て行っている。拒否する利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり翌日に変更している。夏は清拭、冬は足浴等も促して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や本人の睡眠状況に合わせて休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬剤情報から確認し、解らない薬剤があれば法人併設の特別養護老人ホームの看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗い物や洗濯物を干したり、たたんだりと本人がやりたいことを支援している。		



沖縄県（ 認知症グループホーム ローズガーデン ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常的な事業所外の散歩はもちろんの事、年初めの初詣や花見、ジャスコ、サンエーなどのドライブへ定期的に出掛けている。	外出支援を計画に位置付け、利用者は週1回程度敷地内を職員と散歩している。本人の日用品や衣服を買いに職員とスーパーに行ったり、病院受診後に家族と外食する利用者もいる。ドライブがてら浜下り時期に海岸へ出かけたり、市文化会館の古道具展見学も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人希望でお買い物ができるよう、家族へ説明し少額の金額を持たせる事で了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・本人の希望時に社内電話を使い、家族や友人、知人等に連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・不快や混乱を招かないように配慮し、居心地の良い空間を提供している。	共用の壁には利用者の作品や日常活動の写真が掲示され、大きな窓からの採光や通気が心地良い。テレビやBGMの音量を小さめにし、音にも配慮している。テーブルやソファ等は利用者の状態や関係性をその都度考慮し、各々が居心地よく過ごせるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者同士を相席にしたり、フロア内はソファを置き、くつろいで貰えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人やご家族と相談しながら居室の空間づくりをしている。	居室は和室が4部屋で洋室が5部屋となっている。ベッドや筆筒が備え付けとなっており、洗面台は全室に設置され、トイレ設置が4部屋ある。室内は広く、家族の写真や家族が描いた絵画、作品等が壁に掲示され、サマーベッドを持ち込んで宿泊する家族もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にトイレの設置があったり台所が対面式であったり、一般的な家庭の雰囲気に近い構造になっている。職員も見守りしやすく、利用者の自立、「できる」「わかる」が身近に感じられます。		